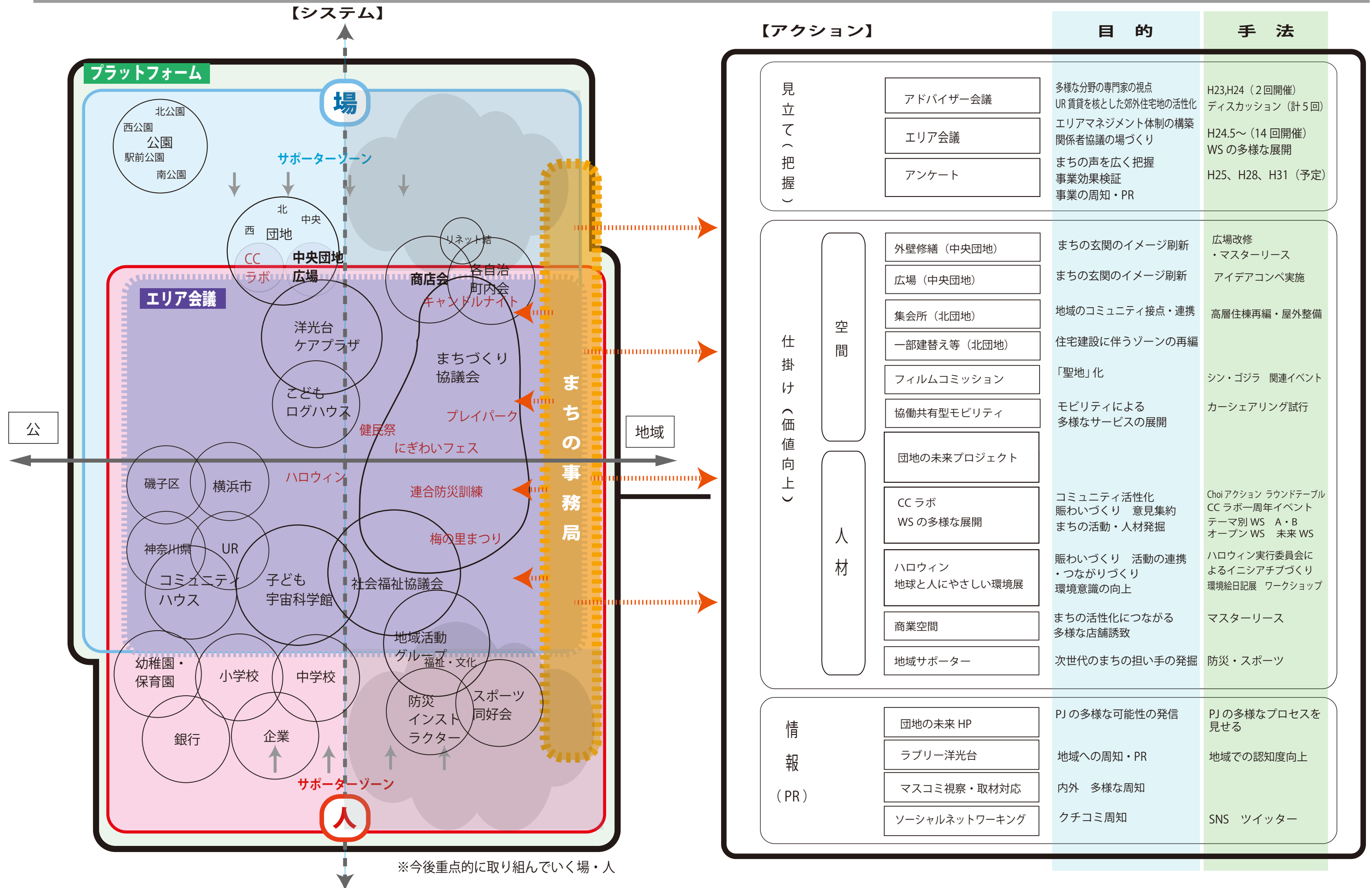


洋光台（未来）プラットフォームの構築 ～持続可能なまちづくり



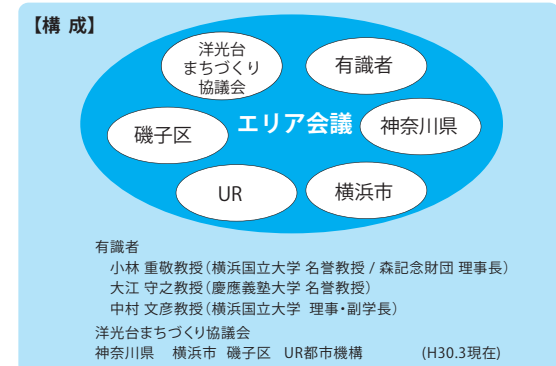
洋光台エリア会議 (アブストラクト・タイムチャート H24.4~H30.3)

エリアマネジメントの体制構築に向けた関係協議の場づくりとして、洋光台まちづくり協議会、神奈川県、横浜市・磯子区、UR、有識者3名により、平成24年5月に「洋光台エリア会議」をスタートしました。

まちづくりの担い手が同じテーブルにつき、まちの活動報告や意見交換、有識者の方々からの助言等から、まちづくりの方向づけを行うことを目的としています。

エリア会議はこれまで6年間、計14回の開催を重ねる一方で、様々な「ワークショップ」、及び洋光台地区（+県営日野団地）約11,000戸に配布する「まちづくりアンケート」、まちを元気にする活動の拠点「CCラボ」の運営等を実施してきました。これらは、より多くの住民の皆さんの思いやニーズ・シーズの把握に努めるとともに、エリア会議での報告による情報共有・フィードバックを行うことで、協働によるまちづくりをすすめています。

まちが出来てから40数年経過した洋光台には既に豊かな空間も人材も備わっていますが、新たな価値を再定義し、新しい住まい方や暮らし方を見出すために、「空間資源」「人的資源」「団地」の価値向上に取り組みんでいます。



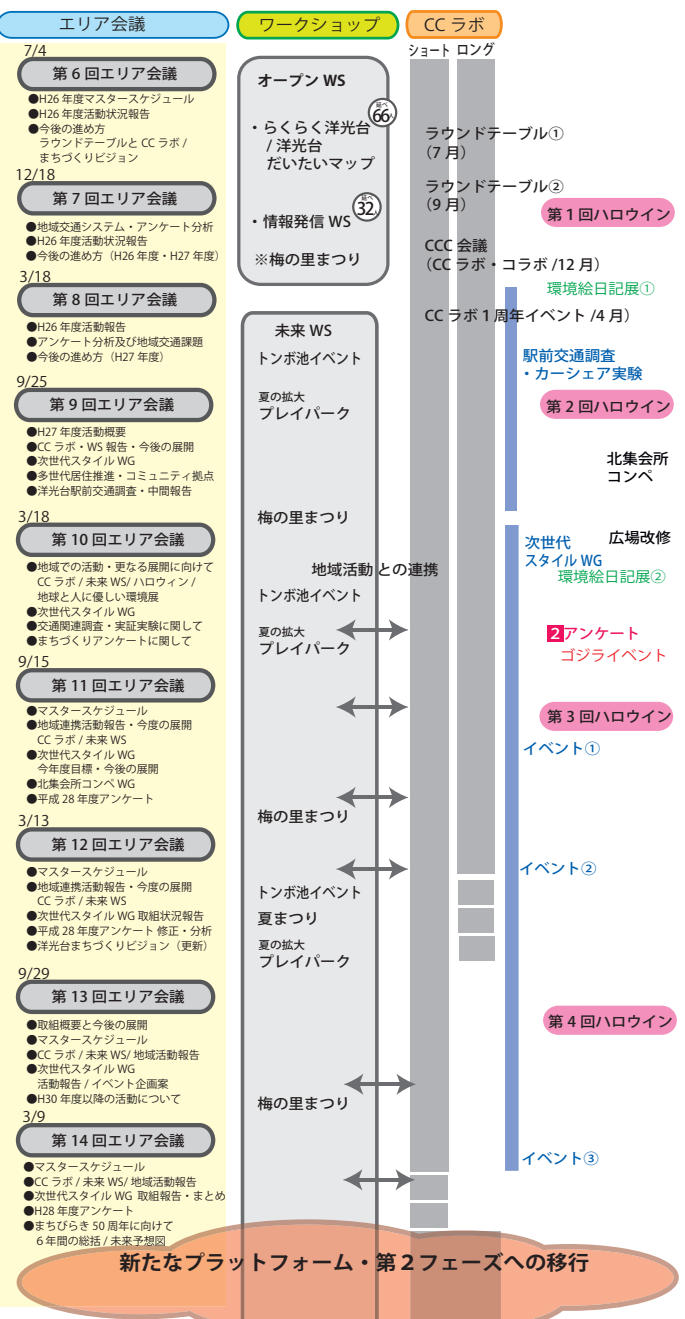
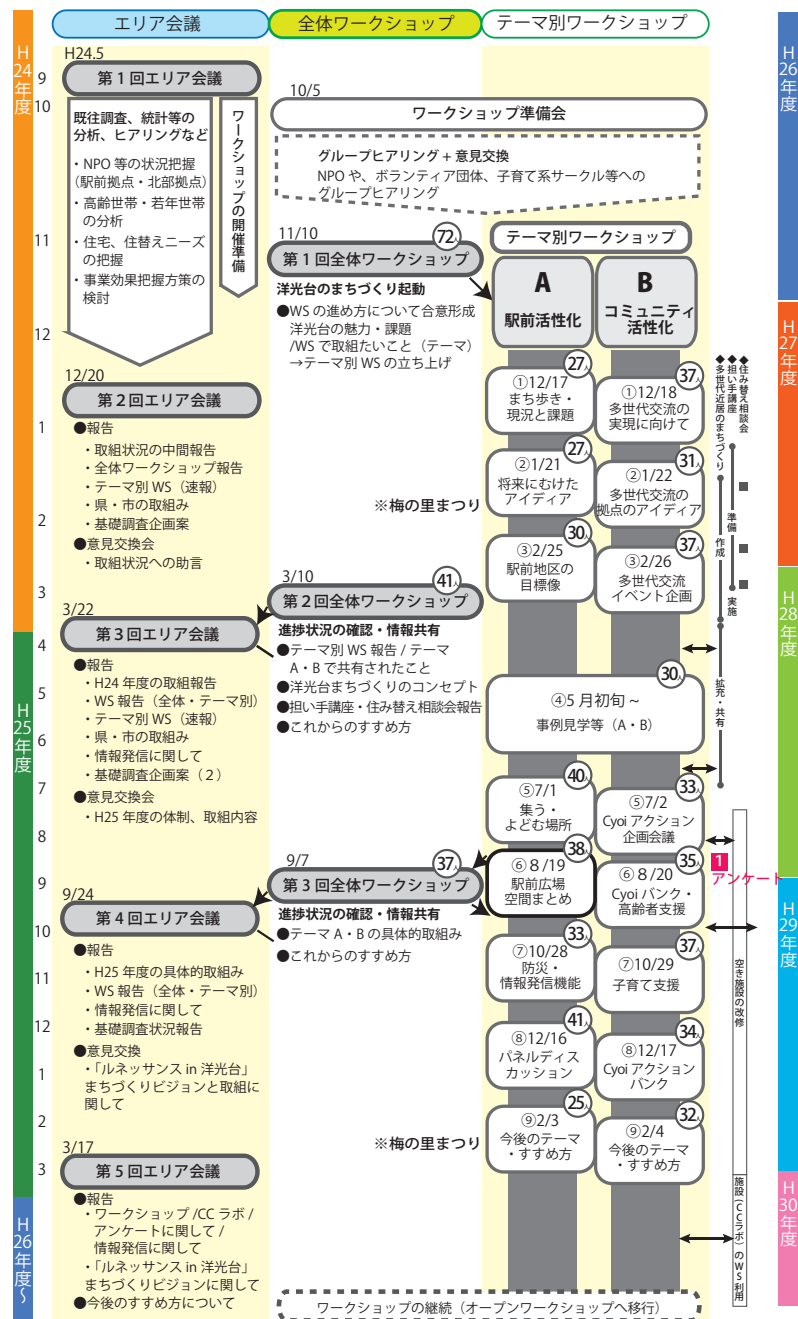
【エリア会議への期待】 ※第1回～第3回会議での意見より抜粋

小林 重敬 座長
洋光台は既にこの地域が持っている課題についての認識があり、有意な資源についても認識があるので、住民・行政・関係者が意識を共有し、具体的な発想・活動するためのこれからの仕組みづくりを議論する段階に入っている。住民とURがいっしょにテーマを絞り、行政から協力を得て活動をしていく方向で動きたい。

大江 守之 委員
住民が個人やグループで様々な活動を行う中から発見される、洋光台での暮らしのニーズを開発主体で共有し、その対応に関する協働の仕方や役割の担い方を話し合い、実施に移していく、そしてまた考えるという新しいスタイルが実現できるとよい。

中村 文彦 委員
地域にとってどういう移動の方法がいいのか、そのために地域住民が何ができるのか、地域から提案することが大事。また交通は手段であって、その先に日常の活動がある。その活動を支え実現するのが交通の役割。外出頻度が上がる、それによって健康的な生活が送れるなど、そういうことまで含めた議論が必要だ。

三上 勇夫 委員 *洋光台まちづくり協議会 会長
URには当時としては先進的なまちを作っていたので、次は持続可能なまちに向けて、もう一段ギアを入れてもらえようをお願いしたい。洋光台で何ができるか本当に考えなければいけない。今後も出来るだけ様々な地域住民の発言の機会をつくってもらいたい。



まちづくりワークショップ (H24.5~H30.3)

まちづくりワークショップは、まちの資源である「空間」「人」「団地」の「人」に焦点をあて、発掘すること、つなぎ合わせる、見える化することにより、「人材の価値向上」を図ることを目指しています。

これまで洋光台では、まちづくりの進行・展開に合わせて、様々なワークショップが行われました。

以下に示すように、大きくは3つのフェーズに分けられます。

第1フェーズ (H25) 全体・テーマ別ワークショップ

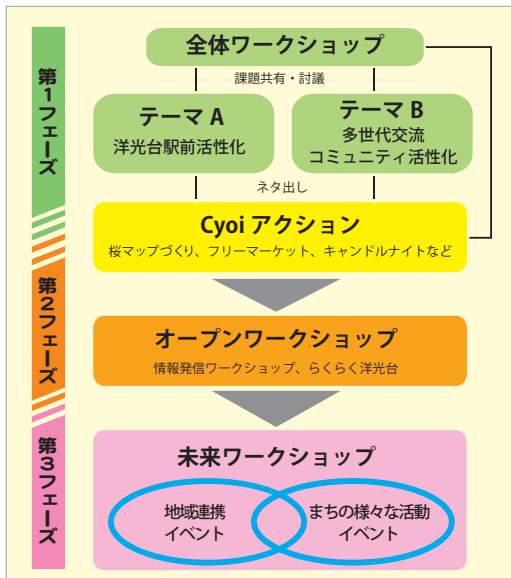
- ・まちの主だった活動グループの方々に声がけし、地域・行政・URがまちへの思いや課題を共有、具体的な展開へとつなげる
- ・情報共有の場「全体ワークショップ」と具現化にむけた意見集約「テーマ別ワークショップ」

第2フェーズ (H26) オープンワークショップ

- ・新たな活動拠点「CCラボ」をベースに、ルネサンス in 洋光台の取り組みに関して情報発信、より多くの人の参画を図る

第3フェーズ (H27) 未来ワークショップ

- ・別名「出前ワークショップ」。まちの様々な活動に参加、協働をはかることでまちづくりの輪を広げる。
- ・特に次世代を担う地域の子どもたちに向け、楽しく魅力的なまちの活動をサポート

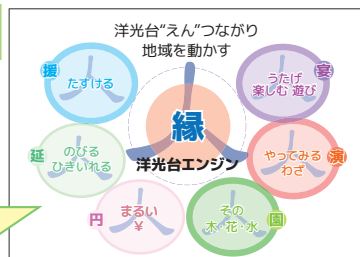


第1フェーズ H25~H26

全体ワークショップ

- ・情報共有・発信の場
- ・「つながり」の大切さを共有するキーワード「洋光台エンジン」がまとまる

地域に大事なさまざまな「えん」を自ら動かしている人達を表しています



- 第1回 (H24.11)
- ・洋光台ってどんなところ？
- 第2回 (H25.3)
- ・ワークショップ等の報告、「洋光台エンジン」
- 第3回 (H24.11)
- ・CCラボ、暮らしのマップ
- 第4回 (H26.6)
- ・これからの洋光台
- 第5回 (H27.5)
- ・振り返り・まとめ

テーマA:駅前活性化

- ・駅前で行ってみたい活動や広場空間のコンセプト、目指したい将来像など (H24.12~H26.5、9回開催)

- ①駅前まち歩き
- ②駅前で行ってみたいこと
- ③目指したい将来像
- ④合同見学会（黄金町）
- ⑤集う・よどむを考える
- ⑥駅前の広場空間
- ⑦駅前広場の将来像
- ⑧駅前からの情報発信
- ⑨洋光台の持ちネタづくり



テーマB:多世代交流・コミュニティ活性化

- ・自分達でできる多世代交流や、洋光台での様々な活動の学びから、北エリアのコミュニティについて考える (H24.12~H26.5、10回開催)

- ①若者と交流するには？
- ②若者と交流する場所
- ③今できる多世代交流
- ④合同見学会（黄金町）
- ⑤Cyoaiアクション企画会議
- ⑥洋光台の高齢者支援活動
- ⑦洋光台の高齢者支援活動
- ⑧そよかせ少年団活動
- ⑨北エリアのコミュニティ
- ⑩北エリアのコミュニティ2



第2フェーズ H26~

Cyoaiアクション

- ・Community yokodai ideaの略称で洋光台のコミュニティ活性化につながる「ちょい」とした「ちょいちょい」できる活動・行動
- ・ワークショップでの「自分たちで考えた様々な活動がしたい」との想いから生まれた
- ・7つの活動が誕生、「キャンドルナイト」は今は洋光台では欠かせないイベントに

第1弾 桜マップづくり



第2弾 ゆめるキャラを作ろう



第3弾 キャンドルナイト



第4弾 洋光台・一箱古本市



2013年

2014年

2015年

2016年

2017年



キャンドルナイト@洋光台2017
日時：2017年10月7日 18時~20時
場所：洋光台駅前公園
主催：らぶまち洋光台
キャンドルナイト実行委員会
後援：地域ケアプラザ

【成果】

- 全体WS:洋光台の様々な活動・団体・人々の思いの共有／洋光台エンジンへの共感／新たなつながり強化／まちづくりへの展開イメージの共有
- テーマ別:駅前広場改修、北集会所改修への意見集約／場所の活用イメージ共有／小さく始める「Cyoaiアクション」

【課題】

- のべ300人を超える参加を得たが、全体からみるとごく一部。更に多くの人々との情報共有、情報発信が必要
- 地域協働によるまちづくりの継続・定着。ワークショップをマンネリ化させずに継続するには具体的なテーマや明確な成果が必要

オープンワークショップ

- 情報発信ワークショップ
- ・洋光台の情報発信、個々の活動の情報発信について考えるワークショップをスタート
- ・CCラボのスペース・使い方を知らせてもらうこともねらいとして、CCラボで月1回開催
- ・ロングラボに洋光台情報コーナーを設置



○らくらく洋光台

- ・Cyoaiアクションの事務局企画としてスタート
- ・起伏の多い洋光台において「楽（らく）にあるける道」を手掛かりに、地域の魅力を発掘
- ・「らくらくルート」判明後も活動継続。洋光台をくまなく歩き回り、その成果を「洋光台〇〇〇〇マップ」としてまとめた



【成果】

- 「Cyoaiアクション」でやってみることの大事さ。実施した成果や課題が各活動にフィードバックされ、「キャンドルナイト」など継続する活動が生まれた。

【課題】

- 参加者の伸び悩み。「CCラボ」の認知度の向上、気軽に参加できる仕組みや雰囲気作り
- 洋光台の活動者は色々なアイデア・活力をもっているが、場所・時間・協力者が少ないため新しい事ができない。更なる活性化のサポートが必要。

未来ワークショップ

- ・洋光台ですでに実施されている様々な活動・イベントにでかけ、ルネッサンスin洋光台として参加する「出前ワークショップ」
- ・特に、工作やゲームコーナーなど、子どもたちが楽しみ、まちでの思い出が豊かになる内容を工夫、定例のイベントに新鮮さや魅力づけを行う
- ・ルネッサンスの取り組みの周知・PRのみならず、地域の方々と同じ場所での活動、目的を共有することで、まちの一員として紐帯を強めるねらい

梅の里まつり

- ・ステージ発表から各自治町内の出店、野点まで洋光台に春を告げるイベント
- ・H25年より参加、「出張CCラボ」をイメージし、子どもが楽しめる工作コーナーを実施



プレイパーク

- ・月2回洋光台駅前公園で開催
- ・子どもが元気に自由に外で遊べる場



トンボ池

- ・地域の方々により守り育てられている「トンボ池」での自然観察教室等



夏祭り

- ・洋光台の12の自治町内会で実施されている夏祭り
- ・各町会で様々な趣向が凝らされた魅力的なイベント
- ・H29年には、2つの町内会の夏祭りに参加。小・中学生が楽しめるゲームコーナーを提案・設置



【成果・課題】

- 自治町内会やNPO等は、それぞれの地域や場に根ざした特色あるコミュニティ活動で地域を活性化しており、地域の人たちも地域への愛着を持って活動を支えている
- 地域には多くのキーパーソン（これまでのWSには未参加）が活動しており、それらのキーパーソンがエリア全体の活動に係われる仕組みが必要
- 既存の活動に積極的に係わり、それぞれの課題を一緒に解決して行く中で、問題意識と情報の共有を図り、それぞれの活動や地域と連携していく

地域連携イベント

地球と人にやさしい環境展@洋光台

- 地域の次世代を担う小学生から、まちへのビュな思いを拾い上げる
- 主 催：洋光台まちづくり協議会
- 開催年：H27、H28
- 場 所：サンモール洋光台駅前広場・CCラボ・UR 洋光台中央団地集会所
- 事務局：ルネッサンス in 洋光台、横浜市資源リサイクル事業協同組合 環境絵日記プロジェクト



「シン・ゴジラ」公開記念イベント

- 誰もが知る映画の舞台となることで、まちの人の地域への誇り「シビックプライド」の醸成
- 主 催：洋光台まちづくり協議会
ルネッサンス in 洋光台
- 開催年：H28
- 場 所：サンモール洋光台駅前広場・CCラボ
- 協 力：ラブリー洋光台、JS 横浜南支店



- ・コミュニティ活動がつくるまちの賑わいや、人が活躍、活動できるまちの実現のために、洋光台駅前広場を舞台に地域活性化イベントを実施
- ・洋光台まちづくり協議会をはじめとした地域の活動団体・企業等と協働で企画・開催
- ・若い世代を呼びこみ、子どもたちに「大人になって住みたい」と思ってもらう仕掛け
- ・地域の担い手の発見と育成

Happy★ハロウィン in 洋光台

- 仮装行列コンテストとパレードなど、まちを舞台に、若い年代層の主体的な参加を実現するイベント
- 様々なコンテンツを多くの地域住民の力でつくりだす
- 主 催：洋光台まちづくり協議会
- 開催年：H26、H27、H28、H29
- 場 所：サンモール洋光台駅前広場、JR洋光台駅周辺、CCラボ、はまぎん こども宇宙科学館、洋光台駅前公園こどもログハウス、洋光台駅前広場など
- 協 賛：洋光台駅前公園こどもログハウス、はまぎん こども宇宙科学館、サンモール洋光台商店街、ショップ27、ルネッサンス in 洋光台



【成果・課題】

- 子どもを軸とした活動は、子どもを見守る大人たちを自然に巻き込むため、多世代の交流が生まれた。今後も活動を継続することで、多世代交流を促進していく
- 新たな地域連携活動により、個人、グループ、組織等が協力しあうなど、連携の幅が広がり、地域全体の連携に向けて一歩ずつ進んでいる
- 地域全体の連携は地域の愛着・誇りの醸成に寄するものであり、今後も地域と一緒に連携・協力体制を促進させる
- 部分活動（準備作業、PR、手伝い等）への協力者、キーパーソンは増えつつあるものの、全体のコーディネート役は少ないため、連携の必要性を伝えていくとともに人材育成をおこなう

まちの様々な活動・イベント

- ・洋光台地区では元来、数多くの地域活動やイベントがさかん、豊かなコミュニティの基本ベースとなっている。
- ・未来ワークショップとして参加・協働を図るとともに、活動や催しの様子を取材・把握し、まち人材や活動について情報収集

健民祭

10月に開催される洋光台自治会・町内会対抗の大運動会。



地域ケアプラザ

福祉の場だけでなく「地域交流」の場様々な多世代交流の活動



洋光台ふれあい広場 えんがわ

ケアプラザと洋光台北団地集会所を拠点として、高齢者の交流などを行う。歌声喫茶も主催。



福祉バザー

地区社協が主催する東急横広場で行われるバザー。毎回行列ができる。



防災活動

地域全体の総合防災訓練から、各自治町内会まで様々な活動



こどもログハウス

小学生以下の子どものための遊びの場。季節に応じたおたのしみイベントの実施

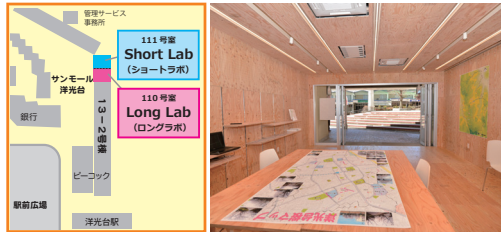


その他、にぎわいフェスタ、自治会・町内会のさまざまな活動 キャンドルナイト、商店街イベント、次世代まちづくりの会 など 多種多様な活動・イベントが洋光台で行われています。

CC ラボ (Community Challenge Lab)

概要紹介

■位置図 (平成 26 年 3 月開始時)



■利用案内 (平成 26 年 3 月開始時)

	Short Lab (13-2 号棟 111 号室)	Long Lab (13-2 号棟 111 号室)
利用時間	9:30~22:00	
利用期間	1 日単位及び 連続 2 日~7 日間	1 ヶ月単位
申込受付	利用月の 2 ヶ月前の月の 1 日~10 日	
利用料金	無料 (平成 27 年 3 月まで)	
利用階	1 階のみ (2 階は利用できません)	2 階 (荷物置場としてのみ)
設備・備品	エアコン、トイレ、流し台 (IH コンロ ×1)	

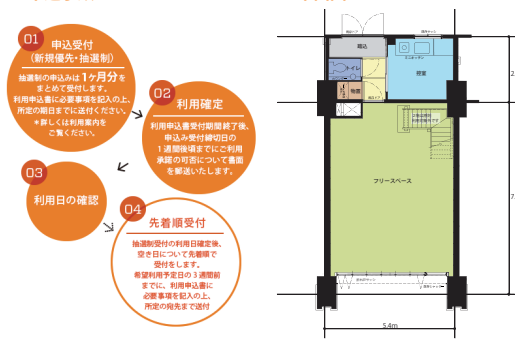
○平成 27 年 4 月 利用期間を変更

ロング: 1~3 ヶ月単位での貸し出し (7 月より)
ショート: 1 日単位及び連続 2~7 日間。
連続しない 4 日間 / 月 (最大)

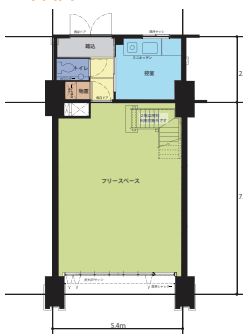
○平成 28 年 4 月 利用期間・申込受付を変更

ロング: 大学連携での利用等の方針検討のため利用停止
申込受付: 1 ヶ月ごとから 3 ヶ月ごとに変更
(活動者の活動予定の早期確定、告知期間確保のため)

■申込手順 (平成 28 年 4 月変更)

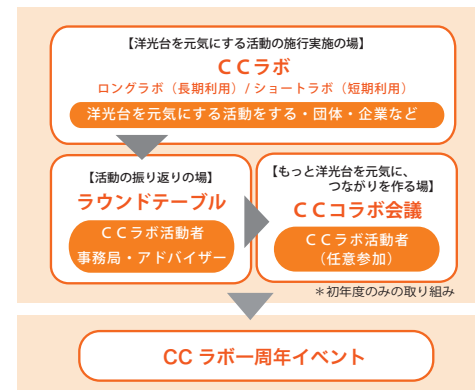


■平面図 (ショートルabo)



取り組みのねらいと 経緯・展開

- ・コミュニティ活性化・多世代交流の実践の場となる地域活動拠点として、駅前広場とつながるよう期間限定で設置
- ・港南台駅前の大型ショッピングセンターとは異なる「コミュニティ活動」がつくるまちの賑わいづくりをねらい 4 つの活動を想定、洋光台エリアのコミュニティ再生につながり、エリア最大の課題である「まちの賑わい」創出にもつながる以下の多様な活動を継続させることを目指し、活動を開始
- ①地域発信型コミュニティ活動 (多世代近居普及啓発、人材育成 (担い手養成) 講座、大学連携 等)
- ②地域活動支援型コミュニティ活動 (地域ケアプラザのサブ機能、NPO などの地域活動団体の活動結節拠点機能、カルチャー活動支援機能 等)
- ③事業型コミュニティ活動 (総合的な活動、買物支援活動、多世代交流活動、店舗活性化活動 等)
- ④環境系コミュニティ活動 (スマートコミュニティ活動、エリア防災活動 等)
- ・当初は一年間の試行実施、希望が多かったため延長し、継続して検証。活動者の声等から利用ルール変更 (左記参照)



CC ラボアドバイザー 石井大朗氏*の提言

洋光台地域で活動する多数の市民活動団体や社会貢献的な企業が存在することが明らかとなった。また、そうした市民活動団体等と UR との関係づくりも進んだ。さらには、利用団体有志によるコラボ会議の設置とイベントの実施など市民活動団体同士による新たな展開が生まれている。こうした成果を活かしつつ、持続可能な発展とするためには、地域のニーズと向き合い、自発的な活動を行う市民活動団体同士が力を生かしあい育ちあう環境づくりが必要である。

*平成 26 年度 CC ラボの取り組みへのアドバイス等
当時: 認定 NPO 法人 市民セクターよこはま理事
現職: 宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授

利用状況 (H26.3~H30.3)

※ロングラボは平成 28 年 3 月まで

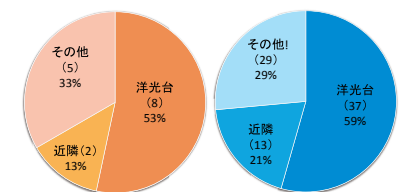
- ・4 年間で **74 グループ** (ショート 68、ロング 15、両方 9)
- ・**地域の活用度が高い**: 半数以上が洋光台地区の活用。田中・栗木等、近隣地域を含めると 70%
- ・**ショートでは「楽しむ活動」が多い**: ショートルaboでは「楽しむ活動 (アートやクラフトづくり・歌など)」が最も多く 54%、「情報提供 (終活セミナー・健康・防災など)」37%「助け合い・支援 (認知症予防など)」が 17%
- ・**ロングでは「助け合い・支援」が 60%**: コミュニティカフェが活動の中心に
- ・利用開始後、稼働率は徐々にアップ: スタート直後の平成 26 年 3 月、4 月は低かったが、3 ヶ月目以降は年間平均 **90%を超える稼働率に!** (平成 27 年 5 月は新年度の継続検討等のため申込開始が遅れたため稼働率が低くなっている)
- ・活動メンバーの固定化: 新規利用グループは月 5 件程度あったが徐々に減少し、平成 28 年は 5 グループ、平成 29 年は 2 グループ。
- ・当初 2 年間の活動参加者はショート 29 人 / 日、ロング 40 人 / 日

利用グループ (個人) 数 (平成 26 年 3 月~平成 30 年 3 月)

Short Lab	68 グループ (個人)
Long Lab	15 グループ (個人)
合計	74 グループ (個人)

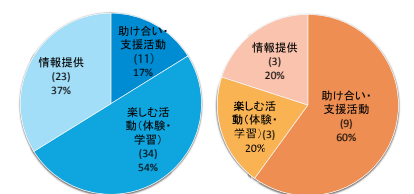
※ロング・ショート両方利用 9 グループ

利用グループ (個人) の活動・居住地域 (平成 26 年 3 月~平成 30 年 3 月)



※近隣...田中、栗木、港南台、笹下、日野

利用グループの活動目的 (平成 26 年 3 月~平成 30 年 3 月)



各活動への参加者数 (延べ)

(平成 26 年 3 月~平成 28 年 2 月) *開始~2 年間

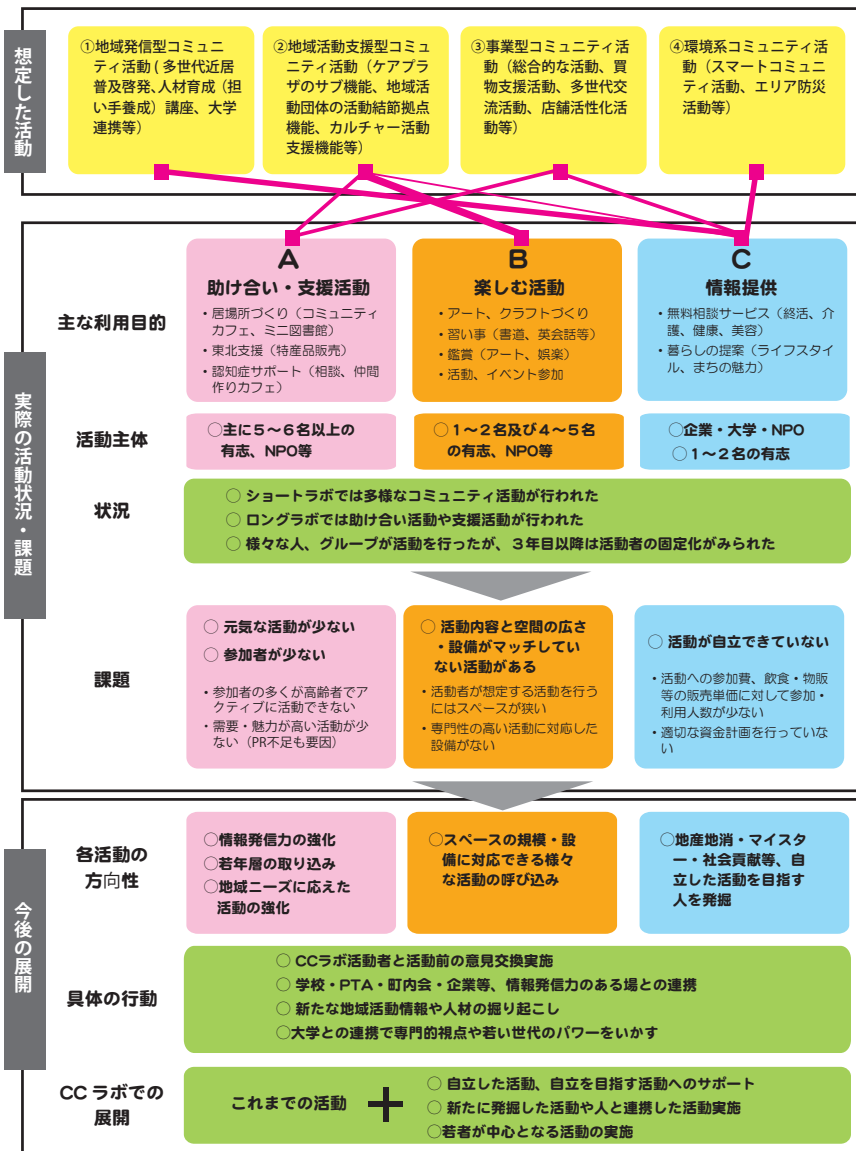
Short Lab	9,597 人	29 人 / 日
Long Lab	11,407 人	40 人 / 日
合計	21,007 人	69 人 / 日

※活動日誌による (活動日誌提出割合約 70%)

「ショートルabo稼働率」と「新規利用グループ数」の推移 (平成 26 年 3 月~平成 30 年 3 月)



課題と展開方向



A：助け合い・支援活動



●認知症＆予防カフェ えんがわ



●お湯カフェ



●まちの保健室

【活動者の声】 商店の方々と知り合ったり、お店を利用して笑顔であいさつを交わすようになりました。全体で洋光台をなめらかにしていけたらと思います。

B：楽しむ活動



○小さな市



○みにょん！



○なないるハーモニー

【活動者の声】 地域に開かれたこのような場があると良いと思います。気軽に集うことができ、自分のやりたいことをやる→仲間ができる→そこから何か生まれる→活性化していくことになるのでは



○私立洋光台学園「帰宅部室」



○洋光台アート寺子屋



○歌・音楽で繋ごう洋光台Sing out in Yokodai

C：情報提供



●これからのライフスタイルを考えるin洋光台



●洋光台第四小学校訪問



●環境に優しい暮らしをIKEAと学ぼう

【活動者の声】 駅近であることから人が集まりやすい素晴らしい会場だと思いました。地域住民のみなさんに喜んでいただけてよかった。空間の良さが講座を生かすことがわかった。